

令和２年度 第２回防府市中小企業振興会議 会議録

日時 令和２年１０月１６日（金）午後２時から

場所 市役所１号館３階 南北会議室

出席委員 １２名

欠席委員 ２名

事務局 １１名

１ 開会挨拶

【市長】

御多忙の中、防府市中小企業振興会議へ御出席いただき感謝申し上げます。

前回８月の第１回目の会議では、皆様にコロナの影響を伺うとともに、防府市中小企業振興基本計画を改正する予定であったがコロナの影響があるため、暫定版にさせていただくことに御了解をいただいた。

今回も皆様の意見をお聞きし参考にさせていただく。本日は令和２年度の中小企業施策の実施状況、また補正予算によるコロナ対策の実施状況の報告を行う。

一方で、来年度から始まる市の総合計画にも御意見を反映させたいと考えている。本来であれば、１０月末には総合計画の素案を示す予定であったが、先般の産業戦略本部会議でも意見もお聞きしたが、この会議での御意見もお聞きしたいため１１月末まで期限を延期した。

防府市中小企業振興基本計画の暫定版についても後ほどお示しするが、皆様の御意見を聞きし、最終的には来年度予算の編成も踏まえたものにしたいと考えている。コロナの影響がどうなるか見えないため、情報収集したいので忌憚のない御意見を賜りたい。

○ 会議成立の報告

１４名の委員中１２名の出席であり防府市中小企業振興会議規則第３条第２項の規定に基づき、本会が成立していることの報告。

○ 会議の公開

防府市中小企業振興会議規則第３条第４項の規定により、公開とする旨の報告。

【会長】挨拶

経済状況が厳しい中、また御多忙の中、お集まりいただき感謝申し上げます。

昨今、一時期おさまっているように見えたコロナが、ヨーロッパを中心に、フランス、ドイツ、オランダ、チェコなどが都市封鎖に追い込まれている。

日本でも、東京を中心に少しずつ発生し続けている。一方で、ゴーツートラベル、ゴーツーイート、ゴーツー商店街と国の施策がなされていく。

我々としては、万全の感染対策を取りながら経済との両立を図るようにしていかなければいけないというところに、一義的には集中していかなければならないということと考え

ている。

一方で、コロナもしくはアフターコロナということで今後どのようなようになっていくのかという議論もされている。

例えば、生き方、働き方への変化が起こるのではないかとされている。特に、リモートワークとかワーケーションという言葉が取り上げられ、それに伴い移住が進むのではないかとされている。

そして、コロナ禍で社会的弱者とか弱いところに多大な影響が及んでいく一方で、うまく進んでいた、グローバルサプライチェーンがうまく機能しなくなってしまったということなどがあり、新自由主義という考え方やグローバル資本主義の見直しの契機にもなっている。

また、非接触が重要ということで、デジタルトランスフォーメーションやITをもっと使っていこうという動きが日本でも政府を中心に民間企業でも起こっている。こういう大きな流れの中で、今後どうしていくのかということも考えることも必要である。

確実なことは、ワクチンとか薬ができたらしかなるのではないかとという考え方もあるようだが、確かにワクチンや薬ができればだいぶ落ち着くとは思いますが、ウイルス自体が無くなるわけではない、そうするとコロナウイルスをどのように防御していくのか、常に経済と感染防止を両立させることを長期にわたって考えていく必要がある。その第一歩として、皆さんと議論させていただきたいと考えている。

こうした中、私が考えていることとしては、デジタルトランスフォーメーションやITの推進、特に防府市の中堅中小企業が弱いところがあるのではないかと考えるため、このことよって、非接触のものを進めていく、これはコロナ対策であるが、それだけではなく、地方の中小企業はやはり大都市に比べると顧客数が少ない、経営時には弱い、条件としてはあまり良くないものを抱えるので、そうすると、距離の概念を取り除くのがデジタルトランスフォーメーションとかネットのビジネスとか、サービスの高度化によって顧客数を拡大していくなどのチャンスにもなると考えるので、これらのことは必要である。

もう一つは、衛生・安全対策もだが、商店街での安全をどうするかといった時に、コロナを寄せ付けない企業とか商店街などをきちんと築き上げていかないといけないと考えている。

この中には、例えば食料品メーカー、加工食品を扱っているなど他でもそうだが、社員の一定数にコロナ患者が出てしまうと事業活動が成り立たなくなる。これに対して、BCPという言葉が流行ったが、そういう時でも事業をどのように継続できるのかということを中心に考えていかなければいけない。

それと三番目に、飲食店や病院など接触型のサービス業でいうと定員を50%以下にしなければならぬという状況である。売り上げが50%落ちるということはかなり厳しい話で、企業によれば苦しくなってしまう。ここの辺はきちんと守っていかなければいけない。

おそらく、こういう3点が柱になっていくのではないかと個人的には思っている。

これ以外にも、皆さんも御意見があると思う、これらを踏まえて、中小企業振興基本計画についての御意見をいただきたい、特に今日は具体的にどういったことが必要だとかいう御意見がいただければと考えているので、よろしくお願いします。

2 令和2年度中小企業振興施策（新型コロナウイルス感染症対策を含む）について

【事務局】

～ 令和2年度中小企業振興施策について概要説明 資料2-1～

令和2年度の事業の概要と進捗状況について、8つの目標ごとの事業を一括説明後、委員の意見を賜りたい。

○目標（1）経営の革新、創業及び承継について

【A委員】

防府市中小企業サポートセンター（以下、「コネクト22」と表記。）の活用状況について具体的に教えていただきたい。

【B委員】

コネクト22の利用状況だが、本来であればセミナーや創業関係のミニセミナーを実施する予定であったが、4月以降のコロナの影響で、コロナへの指導を含めながら経営指導を実施する形をとっている。

資料2-1のとおり、今年8月までの相談実績として506件、月平均100件近い相談を受けている。当然コロナの相談もあるが、この際にビジネスチャンスを見つけていこうという相談や資金繰りの相談がある。

また、ここには記載されていないが、現在コネクト22では、情報発信を強化しようということで、色々な支援策が出てくる中、ホームページ、フェイスブックを立ち上げ、国・県・市の情報をすぐに事業者へ伝えていくことを徹底している。

5月のアクセス数が3327回、6月以降は少し落ち着き1877回、7月が、2521回、8月が2909回、9月が4009回という状況である。

企業の方のアクセスもあるが一般の方のアクセスも増えており、コネクト22を知ってもらえるきっかけとなり、来場者も増えている。

今後は、コロナも少し落ち着いてきたので、コネクト22の強みを活かして、セミナーを少しずつ再開していく。創業相談も46件と、コロナ禍でも創業の相談があるので力を入れていきたいと考えている。

【A委員】

全国的にも、エフビズモデルが成功しているところと成功していないところ、色々言われているが、防府市では（コネクト22が）成功しているということが分かった。

【C委員】

予算の実施状況のところを拝見すると、オンサイト（現場）での事業を計画しているところの実施率が軒並み低い、例えば3番目のイベントの支援の予算額に対して実施率が低い、こういうものをオンラインでの支援などに切り替えることはできなかったのか。

【事務局】

事業実績が上がっていないということで、本来の事業内容からすると、オンラインを対象にした形にはなっていないということでもあるが、今後、コロナの影響を受けて来年度以降の事業の見直しということも出てくると考えるため、新たな発展・展開を検討する中で、例えば、人が集まるイベントだけではなく、オンラインで行うイベントを対象にするなど、その辺りも含めて検討し、予算に反映できるものは積極的に反映してまいりたい。

【D委員】

個別に関しては、まだコロナ禍で、要はコロナの影響がどうなっていくか、みんなの共通認識がないとやることがバラバラになってしまう。

コロナは落ち着いているという一方で、これから経済的にひどくなると言う人もいる。個人的には、今より来年や再来年の方がもっとひどくなると考えている。

その後どういう展開なのかという共通認識が無いと、計画を立ててもバラバラになる。そういうことも含めて来年度予算も今まで通りの歳入が入ってこない中で、ではどうするのかというところまで考えられているのか。

民間は来年もかなり厳しい中でどう取り組んでいくかということなのだが、税金面で想定されていることがあるのかということを経括的に聞きしたい。

【市長】

私も長い間、公務員として予算を組んできているが、御指摘の通り、歳入（税収）は相当地に落ち込むと考えている。総務省の来年の見通しにおいても相当な税収の落ち込みと予想されている。また、それを原資としている地方交付税も落ち込むと想定されている。

しかしながら、一般財源総額については臨時財政対策債などもあるが、コロナは国難のため、国でもこれまで相当な補正を組んでおり、本市においても、国の10万円の交付を入れれば130～140億の補正、単独でも23億程度の補正予算を組んでいるところである。市の予算規模が420億円ということを考えれば相当の補正予算となっている。

しかし今は、財源のことよりも、まずはコロナを乗り越えていくことが先であると思っている。乗り越えないとどうすることもできないため、どうしたらよいかということをもまず考えていかなければいけない。

市としても可能な限りやっていきたいと考えているので、まず、どういうことをしたらよいということの御意見を賜りたい。そうした中で、予算については可能な限り検討する。

将来にわたって厳しいところはあると思うが、まずはコロナを乗り越えるということで行ってまいりたい。

【会長】

目標1については、まず、コネクト22についてはかなり機能しているということなので、このまま推進していければと思う。

ただ、一方で、ITやデジタルトランスフォーメーションをきちんとやらないと、コロナ禍において経済が回らない。

ウイズコロナと掛け声をかけても、人々の心配が取れないため経済活動が停滞してしまう。

受けられるサービスが制限されているという状態では経済が動かない、なおかつ、D委員の御意見にもあったが、問題意識としては、例えば今年と同じような状況にあっても企業の影響というのはかなりのマイナスの部分を出しているのと同じ状況であれば、より厳しくなってくるということが起こってくるであろうということも含めて、どのような対策を取っていけばよいのかということが必要なのではないかと根底にあったのではないかと。

そういう意味では、やはり、守っていくと同時に、コロナに影響を受けないビジネスをどのように、防府の中小企業が行っていくのかということを積極的に考えてこの施策に反映させていくということが重要ではないかと。

○目標（２）創造的な事業活動について

【E委員】

港の関係で4月、5月とマツダ防府工場の停でほとんど車の輸出はなかったが、逆に、日立がタイに輸出する車両の置き場として使用するという違った面の仕事が入ってきた。

今まで通りの仕事に頼るのではなく、違う視点で施設の整備などを行い新たな仕事を取り込むようなイメージで業界としても取り組まないといけない。

目先のこともあるが、将来的な予算を使っていくという、長い目で見た計画的なものが必要だと感じた。

【F委員】

地域商社やまぐち株式会社と連携して、がんばる中小企業者の応援をしている。地域商社やまぐち株式会社は山口ファイナンスグループの関連で、B to B（法人と法人の取引）の商売が中心であったが、B to C（法人と個人）に変わり、「じもっと」（地元のいいものセレクトショップ）というサイトを新たに作った。

これまでは特徴のある地元産品を都会に売り込む商売をしていたが、今は地域で頑張る事業者の拡大のお手伝いを前面に出す個人向けにかえており、金融機関としてサイト掲載へのお手伝いもさせてもらっているの、ぜひ御活用していただけたらと思っている。

【G委員】

地域商社やまぐち株式会社では防府の商品はどれくらい出ているのか。

【F委員】

猪俣製麺さん等少しずつ入ってきている。

【G委員】

もう少し増えるといいと思うのと、皆さん、オンライン、IT化、デジタルトランスフォーメーションなどの話をされているが、やっている人、できる人とできない人の差が大きいということと、やり方がわからないから、オンライン会議はやらないとか、地域商社やまぐち株式会社にしてもわからないからやらないという人が多いと思うので、そういう人への入り口を作るようなものが有れば良いのではないかと。

商店街の高齢の方はノータッチだと思うので、こうした人たちが乗っていけるやり方などがあればと思う。

田舎なので、(IT化等が)されなくても済んでしまうということが多いと思うが、今から「脱ハンコ」とかいろいろな事が進んでいく中で、パソコン・IT関連を地域内でうまく回せる仕組みや、入口を上手くやっていく、例えば、コネクト22でオンラインセミナーをやるなど、やってみて、参加してみ、使ってみてという入口の部分を作っていくと抵抗なく進んでいけるのではないかな。

【F 委員】

今の意見に賛成で、「K A I K A」の「山口県の頑張るお店応援プロジェクトクラウドファンディング」の例として、当初は銀行のマンパワーで宣伝していたが、次第に口コミで、大きく広まり参加事業者が増えていた。

第一次では1千万程度しか集まらなかったものが、第三次募集ではすぐに予定額に達した。

「方法を知らない、起こっていることを知らない」ということも加速度的に広がらないという原因だと思うため、商工会議所等と連携を取りながら金融機関としても発信していきたいと考える。

【会長】

一つは、企業が新しい市場を見つけていくためのサポートが必要ではないかということ。

もう一つは、施策はやっているが、広報ができていない、積極的に行かないと、せっかくいいことをやっても地域の方へ伝わっていないということが結構あるのではないかな。こういうところは一つのヒントと考える。

地域商社やまぐち株式会社のB to C、非常に素晴らしいことだと思うが、もう一つはB to B、いままでやっていたことは、対象の相手が東京でイベントを開いて集めるといった時には、大手が来るのでなかなかこちらと合わない、この中身を例えば、1人でも2人でも小さい店に案内する営業担当者を東京や大阪に置いて案内するという、そして本当に気になったらイベントに連れてくるとか、ホームページ等で企業に合わせていくなど、きめ細かな営業活動をやっていないと、こちらが思う通りの企業は見つからないというミスマッチが起こっているようなことが懸念される。

【B 委員】

それぞれの委員が言われたように、今回のことは、コネクト22のアクセス解析などでも、情報の入手や発信が課題でもあるし重要であることが明らかになった。

先ほど、市長からもあったが、コロナをどうやって乗り越えていくかということが第一の課題で、目先の販売促進に取り組んでいくということと、もう一つがデジタル化、発信するほうもどうやって発信していけば良いのか、どうやって入手したらよいのかなど、この流れはもう完全にデジタル化が進んでいくのではないかなと思う。では、デジタル化が進めば全ての商売がデジタルで済むかと言えばそうはいかない。会長からの提案があったよ

うに、デジタルでわからない部分を提言やアドバイスをしていく提言型の産業というものができてくると思っている。

デジタル化によって、誰にどういったものを売っていくのかを把握していくということで企業としても効率化が進むなど、デジタル化は必要である。

消費者もデジタル化に慣れてきて、全てそういったところで情報を入手していく時代が来るのではという意味では、情報を発信する側も情報を得るほうも一元化して、商工会議所としてはアドバイスしたり教えたりする場所が必要になってくるのではと感じている。

コロナの総合相談窓口では、市、商工会議所、金融機関等が一体となって相談窓口を開いたことで、そこに行けば解決する、ワンストップで行うということが非常に大事だということも感じた。

今回、コネクト22、行政、会議所がデジタル化に関しては一体になって取り組んでいければよいと今感じている。先ほど、デザインプラザということが出ていたが、これからはデジタルプラザ、そういったものが一体として指導していくという機能があれば、色々な問題がワンストップで解決できるのではないかな。

現在、情報発信でいうとホームページを作るまでで終わって、情報発信ができていない事業者が多い。

その理由は、何のためにホームページを作っているのか、誰にモノを売るために作っていくのか、自分の強みは何なのかということなど目的がはっきりしないまま、流れでホームページを作っているため。

いろんな機能が集約することによって、ホームページがこういう風に作れます。例えば、コネクト22の相談員が、「貴社の強みはこういうところなのでこういうところを伸ばしていきたいでしょう」とか、「こういうところをターゲットにホームページを作りましょう」などのアドバイスが一体として、そこでできるのではないかなと思う。

○目標（3）施設又は設備の導入並びに事業活動に有用な技術及び知識の向上について～目標（5）交流及び連携の推進並びに事業の共同化のための組織整備について

【H委員】

（5）の地場産業の育成経費は、本当に利用したい人に中身が伝わっているかどうかではないか。最近の方はネットではほとんどのことを調べて情報をそこから得る、そういうところにどう拡げていくか。ネット社会で嘘ではない本当の情報を拡げていくのか、信頼のおける形で情報を発信できるかどうか、そういう工夫にお金を使っていくのも良いのではないかな。

【I委員】

（3）の防府地域職業訓練センター運営事業について、他市にこういう訓練センターがあるのかあまり聞いたことがない。防府市だけではないかとも思うが、求職者にはすぐ就職したい人もいれば、技術がないので訓練に行って就職をするという人もあり、職業訓練は有効だと思う。

職業訓練は、パソコンだけを教えるということではなく、就職活動の方法、経歴書の書き方、面接指導など、今までの自分の振り返りといったことも併せてカリキュラムに

なっているので非常に大事なツールだと思う。

○目標（６）産業集積の活性化について～目標（８）資金調達の円滑化について

【I 委員】

工場等設置奨励制度について、事業者に対して新たに雇用した人数に応じて奨励金を交付したというのがあるが、ハローワークとしても市の誘致された企業から求人をいただき、市と連携を取りながらやっていきたいと考えている。

【C 委員】

雇用に関する奨励金だが、1 回目の会議で、人材確保で生き残りと再生を目指すということで提言があったが、他にも、事業承継も含めて項目があったと思うが、人の確保、事業の継続に関して、どういった工夫がなされているのか見えにくいので、努力されているのはわかるが、そういうところに市が支援しているということを、もっとアピールして、先ほど B to C の工夫という話があったが、そういった支援制度を市が推進して事業を行っている、継続を支援しているということをもっと見える形でアピールしても良いのではないか。

【事務局】

後ほど説明予定としていたが、今年度コロナ対策を踏まえての補正予算を組んでおり、雇用対策や企業の人材確保の対策についても盛り込んでいるものもある。

今後、総合計画の策定や、新年度予算を編成する中で、御意見を参考にしながら改めて充実するものはさせていきたいと考えている。

新たな企業誘致と既存企業への支援という部分もあると思うので、貴重な御意見として反映させていきたいと考えている。

【会長】

全体をとおしてみると、コロナということが生じて今までの中小企業振興策と違う特徴を出していかなければなかなか難しくなってきた。

例えば、IT のことしかり、その対象としていくお客さんをどこにしていくなのかということも考えていかないといけない、ビジネスも今までの延長ではない別のところを探していかなければいけない。

人材のことでいくと、IT やデジタルトランスフォーメーションでは、そのことをサポートしてくれる人材が必要になってくる。

例えば、副業の方々に東京の方から来てサポートしていただくとか、IT のシステムを作るための大きなシステム会社とかではなく、ホームページとかそれに付随したものでよいのでやって欲しいというようなニーズはあると思うが、ではそれを頼むところが結構なかったりするのではないか。

もちろん、副業の人材育成ということは山口銀行の御協力を得て調べさせていただいたが、やはりこれからのビジネスだと承知しているが、こういうところをやって、少しでも新しいニーズに向けたことをやっていかなければいけないということはここでわかった

と思う。

お金のこともそうだが、次に向けては、今の時代に必要な中身をもう少し精査していくということも必要ではないかということが今の議論で明らかになったのではないかと思います。

○新型コロナウイルス感染症対策について

～ 令和２年度補正予算による新型コロナウイルス感染症対策について

概要説明 資料２－２ ～

令和２年度補正予算により実施した新型コロナウイルス感染症対策事業を説明後、委員の意見を賜りたい。

【Ｈ委員】

１ページの「新型コロナウイルス感染症関連総合相談窓口の設置」は、受付件数と相談件数の相違は、１件で複数の相談をされるということか。

【事務局】

そのとおり。一人が、一つだけの相談ではなく、複数の相談をされている延べ数ということ。

【Ｈ委員】

３ページの「宿泊推進・観光活性化事業」は、予算額は５千万円なので１万人の想定だと思うが、現状の利用は９％くらいだが、対策は打たれるのか。

【事務局】

担当課はおもてなし観光課だが、９月末現在となっているが、今後利用が進むようＰＲも含め担当課が検討していると思うので、ゴーツーキャンペーンがはじまり、防府市でも独自にこういうものが有ると分かれば利用も増えていくと考えている。

【Ｂ委員】

この事業は、商工会議所も一緒に実施しているが、最近、市外、県外からの問い合わせが非常に増えている。

人気があるのが野島の宿泊所でほとんど満室状態。これから年末に向けて増えると考えている。それと、結婚式で防府に帰るために利用するという問い合わせが増えている。

【Ｈ委員】

８ページの「高齢者元気アップ事業」は、７５歳以上の高齢者に花ということだが、寄附したいとか、花はいらないとか、選択肢はあるのか。

【事務局】

担当課は高齢福祉課だが、これから御案内の開始予定ということで、現在、事業者との

調整が終わったと聞いている。寄附ができる等については把握していない。

【市長】

今回のコロナの関連で、ブライダルとか葬儀とか花屋の利用が減っている。母の日のカーネーションの利用にも影響があった。もう一つは、市内の花き農家の振興についても併せて実施しているもの。お年寄りの方についても、今年は敬老会等がなかったため、お渡しするもの。強制ではなく申込方式。

【会長】

目的も、このことが市のためになるという効果の記載が必要かもしれない。

一件お願いしたいが、コロナ関係で先ほど、松田委員から、コネク22に創業の相談、あるいはコロナの少し前に創業したなどということで、事業で支援が得られるのは、対前年比でいくら減ったということがあり、創業した人が支援から漏れている可能性がある。私のゼミ生で東京のベンチャーを去年の11月から始めた人間もまだなんとか生き残っているが、支援がないか探しても見つからなかったということだった。

例えば、防府市でベンチャーを立ち上げたいという場合、そういうサポートがあるということとはひとつのプラス要因になると考える。ぜひその辺りも検討いただければと思う。

【B委員】

2月、3月の創業というのが4～5件、飲食店中心にある。その人たちは、なぜその時期と言われるが、創業者は1年前から事業計画を立てて3月に創業している。

国の支援策は全て対前年比の比較で外れてしまう、我々は、コネク22の創業担当を中心に、とにかく寄り添っておく、常に声をかけてあげる、困ったときにはすぐに相談に乗るということで色々聞いてあげて、ゴーツーイート含め支援策に名前を出していこうとアドバイスしている。補助金は得られないかもしれないが、そういう情報を提供し、コネク22を中心に、まずは寄り添うということを実施している。

3 防府市中小企業振興基本計画について

【事務局】

～ 防府市中小企業振興基本計画について説明 資料3-1 3-2～

防府市中小企業振興基本計画について説明後、委員の意見を賜りたい。

【市長】

補足だが、暫定版には、委員の皆様の御意見を掲載させていただいている。これから検討してまいるが、具体的には当初予算等でしっかり検討したうえで、最終版を策定したい。また、本日頂いた御意見も参考に修正してまいりたいので、よろしくお願い申し上げます。

【C委員】

前回の会議資料を持ってきているが、説明のとおり前回有った意見は記載されているが、今市長からもあったが、ここで特に今回強調されていた、オンラインの活用や支援の項目

は、ぜひ最終版には加えていただきたい。それと、これはできないことなのかもしれないが、通常の時期であれば、このような事業建て予算建てでよいが、先ほどの当初予算の使いぶりを拝見していると、補正予算と比べてでこぼこがある。枠で取っておいて緊急性のある所へ予算を機動的に投入していくというような、暫定版の期間だけでも国の予備費的な使い方ができるような形で工夫していただけると、時期に応じた支援ができると考える。無理なお願いなのかもしれないが検討していただきたい。

【市長】

これから来年度の具体的な予算編成方針等を策定することになっているが、最初に申し上げたとおり、コロナということで非常事態にあり、D委員からもあったが、どういう状況になるかわからないため、議会もあるが、工夫を凝らしながら事業者のためになる予算にしていりたいと考えている。

【D委員】

市長はじめ公務員の皆様は大変だと思うが、民間の一企業からのお願いだが、まず、これからの若い人たちに集中して予算をつぎ込んで欲しい。それと弱い方々のサポートに使って欲しい。

また、交流人口を増やして、防府市の定住人口をさらに増やすこと。基本的には人口が増えないと根源的な部分である。その中で防府市ができること我々ができることを改めて考えていただきたい。

それと、ありがたい話で色々な融資や補助金があるが、これが逆にゾンビ企業を増やすことが無いように、一番の懸念材料である。前向きな会社にお金と人をつぎ込むこと。中小企業でいうと中小企業の統廃合とか地銀の再編成とか、かなり厳しい内容になっている、じゃあどうしたらよいかというのは、これから地元の方々と忌憚のない話をしないと、上面だけではとても生き残ってはいけない状況である。

その中でデジタルトランスフォーメーションもそうだが、あくまでこれは手段で、その前提としてお店なり会社他にないどういう強みがあって特徴があるかというところを、やっている人間たちがわからないと発信しようが無い、その根本がきちんとできているか、そのうえでそういう手段を使っていただきたいということが私の個人的なお願いである。

【J委員】

先ほども話があったが、補助をもらうということは非常にありがたいが、コロナだからということで、マイナスな考え方で補助を受けるのではなく、コロナだからこそという力強い発信を持って補助につなげていただきたいと思う。そうでないと、新しいこともできないし、考えも生まれえないと思う。

若者に対してという御意見もあったが定住人口を増やすということで、前回の会議でも言ったかもしれないが、若者をとどめるのではなく、若者を外から引っ張ってくるぐらいの勢いで、まちのPRもそうだが、まちづくりについても、魅力あるまちをつくれば、外から来る人も増えると思う。

やはり、若者をそこに留めるではなく、出した先でより多くの若者を引っ張ってくるぐらいの勢いを持った企業づくりというのも大事だと思うし、そういう環境をぜひ防府全体で作っていただきたい。そのための基本計画であって欲しいと思う。

【会長】

今日、全体で一番強く感じたのは、コロナが始まったころより、予想されていたことだが、デジタル化を推進していかなければならないだろうということ。

ここにきて思うのが、計画としては、ここ1～2年でコロナがおさまったということはあるかもしれないが、おそらくウイルスは残ってインフルエンザのように季節に関係なく急に増えるということが結構起こると思う。そうすると、その時にはすぐに対応できるという状況を作っておかなければいけない。そういうことが起こった時に、事業をどのように継続していくのか、それから商店街や市全体でどのように対応していくのかというノウハウをきちんと揃えておかないといけないだろうということ。

それがどこの中に入ってくるのかということも、考えていただいて内容に付け加えていただければと思う。

デジタル化でいうと、そのサポートしてくれる人材をどこから持ってくるのか。サポートの内容によっては、先ほど言ったように、もっと簡単なところであれば副業人材などを活用するということがある、副業人材を活用するということは交流人口を増やすということにもなる。少なくともバーチャルでの交流人口ということになっていくのではないかな。そういうことも考えていただければと思う。

それと、もう一つ大きかったのが、施策をやるけれども今までと違うところがあるので、経営者の方々もどこにどう相談したらよいかわからない、自分の問題と、掲げているテーマが合っているのかどうなのか、おそらくそういったところから問題が発生しているのではないかなというような話があったが、これは結構大きな問題だと思う。

実際数値を見ても予算額に対して実績額にかなりの乖離が起きているということで、このところは、もっと積極的に経営者にアピールしていく、寄り添っていくということをしていかないと、どれだけ良い施策を作られても実行に移らないということが起こってしまうと思うので、そういったところの工夫というのが必要ではないかなと思う。

先ほどの副業人材というのはどういうことかと言うと、一般的に正社員の採用とかを考えてしまうが、特に会社をIT化していくとか、会社のインフラを作るということであれば、この時だけ人材が必要ということが結構あり、しかし、システム会社というところに頼むまでのものではないし、中小企業などであればそれに見合った投資が必要だと思うのでそこを円滑に促していく、低コストで提供できるという仕組みが結構重要ではないかなと思う。

そうするとやはり、副業人材というものが重要になってくるということなので、そういうような方々や個人でビジネスをやっておられる方を、いかにうまく集めてきて提供していくのか、これは国でもそういうことはやっているようなので、中小機構などと併せて的確にIT化やデジタルトランスフォーメーションに向けて企業が変わっていけるようにしていくということが重要ではないかなと思う。

もう一つは、販路の拡大のところでいくと、ネットということもあるが、懸念するのは、

お金は域外から持ってこないといけない、そうすると外に対してどういう風に販路を拡げていくかということが重要で、このあたりの見直し。我々に合った販路、販路の築き方、もう少し具体的にこういうのがいいのではないかということを検討してやっていく、それは地域商社やまぐち株式会社などと一緒に推進していくというようなことが必要ではないかと思った。

4 その他

【会長】

その他何かあるか。

【K委員】

私自身も地域産業促進補助金を申請させていただいて、ネットショップの開設など新しい事業を考えて実行させていただいた。小さい経営者だが、コロナ禍においても仕事が継続できるように頑張っているところである。

【会長】

今の御意見は、きちんとアクセス出来て補助がもらえれば、事業が継続できるということだと思いますので、やはりそういうところにつなげていくことが重要だということ。

それでは、事務局へお返す。

【市長】

～ 閉会の挨拶 ～

本日は長時間にわたり御審議していただき感謝申し上げます。

今日頂いた貴重な御意見は、来年の当初予算、またこの基本計画に、また可能であれば12月の補正予算に参考として取り組ませていただきたい。

これからも、コロナのことを含め、忌憚のない御意見を賜りたい。

【事務局】

以上で、令和2年度第2回中小企業振興会議を終了する。

会議終了 午後3時50分